

第 1 章

平成 21 年度 いんざい環境ニュース

平成 21 年度は、北総里山フェスタや手賀沼流域フォーラム
地域企画など、さまざまな環境関連イベントが開催され、たく
さんの皆さんにご参加いただきました。ここでは、その一部を
紹介します。

1 第2回 北総里山フェスタ

今回で第2回目となる「北総里山フェスタ」が千葉ニュータウンで開催されました。

「北総里山フェスタ」は、林野庁、北総里山クラブ、千葉県及び千葉の里山・森づくりプロジェクト推進会議の共催によるイベントで、今回は武西地区の里山※で清掃活動を行う「Part 1 里山の大そうじ」と、イオンホールにおける「Part 2 里山シンポジウム」の2部構成で行われました。

Part 1 里山の大そうじ

北総地域に広がる豊かな里山は一見きれいに見えますが、下草が無くなる冬には草に隠れていたごみが散見されるようになります。「里山の大そうじ」は、地域のみなさんが協働してこれらのごみをそうじすることで、里山環境の価値を認識・共有してもらうことを目的として実施されました。

平成22年1月23日（土）に開催された大そうじは、地域住民や行政、企業からの一般参加150名にスタッフ30名と大盛会で、6班に分かれた参加者は投棄された冷蔵庫や自転車などの粗大ごみを運び出し、空き缶などの小さなごみを一つ一つ拾いながら汗を流しました。

また、親子プログラムとして「持って帰りたいゴミはどれかな?」、「一番気になるゴミはど〜れ?」、「環境に悪そうなゴミはあるかな?」の3つのテーマでゴミ図鑑づくりを行い、合わせて65枚の力作が原っぱに展示されました。

イベントを主催した北総里山クラブでは、里山をきれいにするアイデアを市民に募るなどして、今後も美化活動に取り組んでいきます。



里山のごみをスケッチ
(ゴミ図鑑づくり)



古タイヤや資材ごみなどの投棄ごみや
お弁当などのポイ捨てごみがどっさり



ごみ拾い後には・・・
スイトン汁とおにぎりの差入れ

Part 2 里山シンポジウム ～語り合おう僕らのまちを～

第2部となる「里山シンポジウム」は、平成22年2月13日(土)にイオンホールで開催され、一般151名、スタッフ70名が参加しました。

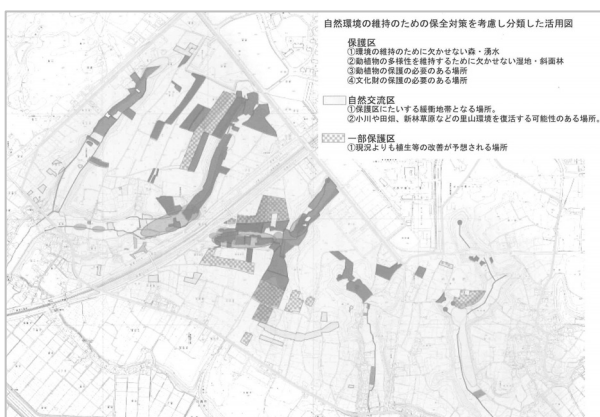
午前の部では、今ある貴重な里山環境を暮らしの中で守り伝えていくためにはどうしたらいいのだろう、どんな提案があるだろうというテーマで、東邦大学と千葉大学の学生らが研究発表を行いました。



午前の部では、大学生が里山の生き物に関する調査報告や里山を活かした新しい郊外居住の提案を行いました

午後の部では、ゲストとしてあん・まくどなると氏(国連大学高等研究所 いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット所長)と嘉田良平氏(横浜国立大学大学院教授)が、国際的な観点から見た里山と、持続可能な里山保全のありかたについて講演し、長谷川雅美氏(東邦大学教授)が谷田武西地区の里山を保全していくための提言を行いました。

また、最後にはケビン・ショート氏(東京情報大学教授)と木下勇氏(千葉大学教授)を交え、会場のみなさんと一緒ににぎやかなディスカッションが行われました。



北総里山会議自然環境部会の座長を務める長谷川雅美氏は、谷田武西地区の企業庁用地をモデルケースとして、生きものと人が共生していくための保全対策を提案しました

←自然環境の維持のための保全対策を考慮し分類した活用図

- 『保護区』 保護策などにより立入りを制限
- 『自然交流区』 自然を活用した活動を行う
- 『一部保護区』 対象種を限定して保護する等を設定している

2 手賀沼流域フォーラム印西地域企画

手賀沼流域フォーラムは、手賀沼の水質浄化活動を広く啓発し、日常生活の中で水質浄化に取り組んだり、手賀沼にもっと親しんでもらうことなどを目的として、市民と行政、地元研究機関などが協働し、平成9年度から開催しているイベントです。

第13回となる今回は「手賀沼の生物多様性をともに考えよう」をテーマに、流域自治体等における18の地域企画と全体会が行われました。印西地域ではNPO※団体の主催による4つの企画が開催され、延べ228名の市民のみなさんが参加しました。

企画① 水の旅～手賀沼船上観察と周辺施設見学

実施団体：北総エコの木の会

印西 水と暮らしを守る会

実施日：平成21年8月19日（水）

参加者数：20名（うち子ども5名）

- ・北千葉導水ビジターセンター、手賀沼終末処理場、木下取水場を見学
- ・手賀沼を船で見学（水試料を採取）
- ・水質測定（パックテスト）を体験



北千葉導水ビジターセンターを見学

企画② 六軒川船上観察会&木下ぶらりまちめぐり

実施団体：ごみと暮らしを考える会

NPO 法人いんざい子ども劇場

実施日：平成21年6月7日（土）

参加者数：53名（うち子ども23名）

- ・ぶらり船の旅（手賀川上流の弁天川の船旅）
- ・学習会『里山から里沼へ』
- ・木下まちめぐり



六軒川を船から観察

企画③ 亀成川源流の自然探検と川遊び

実施団体：NPO 法人ラーバン千葉ネットワーク

実施日：平成21年8月16日（日）

参加者数：35名（うち子ども17名）

- ・里山ウォークと水辺の生きもの観察会



亀成川の源流部を探検

企画④ 『木を植えた男』上映会 & お楽しみワークショップ

実施団体：北総エコの木の会

実施日時：平成21年8月26日（水）

参加者数：120名

- ・サザンプラザ少年少女合唱団による歌『崖の上のポニョ』
- ・アニメ映画『木を植えた男』上映会
- ・夏休みお楽しみワークショップ（エコ実験、工作体験、身近な生きもの観察）



サザンプラザ少年少女合唱団
『崖の上のポニョ』



お楽しみワークショップ
身近な自然見つけ隊



お楽しみワークショップ
リサイクルビーズでブレスレット作り



私たちが育てるエコの木
葉っぱ形の入場券の裏に地球を守る
ためにできることを書いて、貼り付けて
もらいました

コラム ★ 印旛沼・手賀沼の水質

印旛沼・手賀沼は、昭和30年代以降の都市化の影響で水質が悪化し、全国ワースト1位となった過去があります。

近年は様々な水質浄化対策の効果が現れ、改善傾向にあります。平成20年度現在も印旛沼がワースト6位、手賀沼がワースト8位と上位を占めています。

沼の水質浄化へ向け、今後も継続的な取り組みが求められています。

平成20年度 全国湖沼のCOD濃度ワースト8

順位	湖沼名	COD年平均値
1	伊豆沼（宮城県）	9.5 mg/L
2	北浦（茨城県）	9.3 mg/L
3	春採湖（北海道）	9.2 mg/L
4	佐鳴湖（静岡県）	9.0 mg/L
5	常陸利根川（茨城県）	8.7 mg/L
6	印旛沼（千葉県）	8.5 mg/L
7	霞ヶ浦（茨城県）	8.4 mg/L
8	手賀沼（千葉県）	8.2 mg/L

出典：環境省

3 太陽光発電施設の導入

太陽光発電は、太陽光を直接電力に変換するため、発電時に地球温暖化の原因となる二酸化炭素を発生しません。そのため、地球温暖化防止対策として全国の自治体で公共施設への太陽光発電施設の導入が推進されています。

本市では、平成 15 年度に初めて大森小学校に導入しており、既に稼働しています。また、平成 20 年度には市庁舎屋上に、平成 21 年度には総合体育館（松山下公園）の屋上にも太陽光発電パネルを設置しており、これらは平成 22 年度より稼働する予定となっています。



総合体育館屋上の太陽光発電パネル
(発電容量 12.6 kW)



発電量などを表示するパネル

コラム ★ 太陽光発電システム等には補助金が交付されます

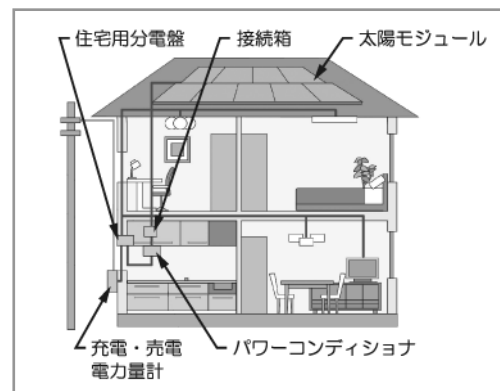
印西市では、地球温暖化防止など環境への負荷の低減を目的として、ご家庭に太陽光発電システムや太陽熱利用温水器を設置する場合に、設置費用の一部を助成しています。

太陽光発電システム等の導入を検討している方はぜひご利用ください。

補助金額

- ・ 太陽光発電システム…1kW あたり 5 万円（上限 20 万円）
- ・ 太陽熱利用温水器…1 台 3 万円

- 現在、国でも太陽光発電システム設置にかかる補助制度を設けています。詳しくは太陽光発電普及拡大センターホームページ (<http://www.j-pec.or.jp/>) をご参照ください。
- ご家庭で使いきれなかった余剰電力は電力会社に売電することができます。詳しくは買取制度ポータルサイト (<http://www.enecho.meti.go.jp/kaitori/>) をご参照ください。
- 現在、太陽光発電システムの訪問販売によるトラブルが多発していますので、ご契約の際は十分に内容をご確認ください。



太陽光発電システムの例